

群 教 七	G11 - 01
	平16.220集

目標に向かって集団の一員として考え、 行動できる生徒を育てる特別活動

- 先輩としての自覚と誇りを高める

「ミッション100」の活動を通して -

特別研修員 大澤 雅子 (太田市立毛里田中学校)

《研究の概要》

本研究は、先輩としての自覚と誇りを高める「ミッション100」の活動を通して、目標に向かって集団の一員として考え、行動できる生徒の育成を目指したものである。具体的には、学校行事を成功させることを目標にし、先輩として求められている姿を意識することで活動意欲を高め、達成のために自分ができることを考え、実践する。さらに、その取組を振り返り、成果を次の行事や卒業までの生活に生かしていくという活動を行った。

【キーワード：特別活動 中学校 学級活動 集団の一員 学校行事 振り返り】

主題設定の理由

本学年の生徒(中学3年生 男子48名 女子52名、計100名)は、素直で、落ち着いた生活を送ることができている。挨拶や清掃、緑化といった、学校として力を入れている活動についても、自校の伝統という意識があり、よく取り組んでいる。しかし、生徒自身がよりよい学校生活を目指して主体的に取り組むというところまではいっていない。また、小学校からほとんど変わらない固定された人間関係の中での取組は仲良しグループに左右されてしまう面が見られる。したがって、「全員でここまでやれた」という達成感や、「この学年でよかった」という満足感を抱いて卒業を迎えるためにはもっと一人一人の活動意欲を高める必要がある。生徒は4月に「3年生になって」という作文を書いているが、そこには、「最高学年である誇りと責任を感じながら生活したい」「後輩から、よい先輩と思われるような人になりたい」といった記述が多く見られた。そこで、生徒に最上級生としての自覚を呼び覚まし、そこから生まれる共通の目標を持って学校生活を送っていくことにより、集団の一員として考え、行動できる力を育てていきたいと考えた。

本研究では集団の一員として考え、行動できる力を育てるために「先輩として行事を充実させ、成功させる」という共通の目標を設定する。目標の設定にあたっては、自分たちが置かれている立場や段階を再確認する時間をまず設ける。そして行事にどう取り組んでいくかを、「先輩として」の視点から考え、実践して振り返り、卒業までの生活の充実へとつなげていく。学年100人で取り組んでいくことから活動名を「ミッション100」とした。100人が全員で取り組んだものが評価されることは、達成の喜びを何倍にもし、共に誇りを持って次の活動に取り組む意欲を高める。こうした活動を通して、自分の所属する集団の中で目標に向かって自分のすべきことを考え、行動できる生徒が育てられると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

先輩としての自覚と誇りを高める「ミッション100」の活動において、学年全員で得られ

る達成感や満足感を卒業までの充実した生活への意欲につなげる指導を行えば、目標に向かって集団の一員として考え、行動できる生徒を育てられることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 学級活動 において、「3年生になって」の作文から「先輩」である自分たちの思いを再確認する。そして、先輩として今後の生活をどう送っていくかを話し合い、スローガンを作ることは、最上級生としての自覚を高め、生徒は「先輩として」諸活動に取り組んでいこうとする意識を持つことができるだろう。
- 2 先輩らしい姿をイメージしながら体育祭に臨み、そこでの取組を1、2年生や保護者から評価してもらうことは、行事中での「先輩」の存在の大きさを確認することにつながり、「先輩」という集団の一員として、行事を充実させ、成功させるという目標を持って活動する意欲をもつことができるであろう。
- 3 先輩として行事を成功させるための取組や活動を「ミッション100」と名付け、生徒自身が企画した活動を学級活動委員会を通して提案し、実践して振り返っていくことは、その行事における達成感や満足感につながり、卒業までの生活の充実を心がけて、集団の一員として考え、行動していこうとする意欲を育むことができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「集団の一員として考え、行動できる生徒を育てる」

まず、人の集まりを意識でき、その集まりの中に自分がいることを意識できること。そして、その集団において自分が一構成員として価値ある存在であることに気づくこと。さらに、その集団における目標を見出し、達成に向けて行動することができるということである。また、リーダーやフォロワーといった、自分の集団の中での役割を考え、助け合って物事を成し遂げていくことも目指している。本研究では「集団」を「先輩である3年生」とし、「考え、行動する」場として「学校行事」を取り上げた。意識調査から見ると、図1にあるように、生徒は、体育祭、学芸発表会の二つの行事に対して、先輩としてしっかり取り組むべきだ、取り組みたいという強い意識を持っている。一方で地域清掃に対する意識はやや低く、「取り組みたい」という意欲の面で特に差が表れた。最上級生である3年生の意識や取り組みは学校行事の成功に大きく関わっている。そこで、意識の高い前半の二つの行事の中で意欲を高め、三番目の地域清掃に対する意識や取り組みにつなげていくという流れを考えた。その際、行事を成功させるための取組や活動を自分たちで考え、企画として提案し、実践していくことによって、集団の一員として考え、行動できる力を育てていきたい。また、「先輩らしさ」とはどんな姿に表れるのかを生徒にイメージさせ、「先輩らしさのポイント」としてまとめ、行動の指針として示していきたい。

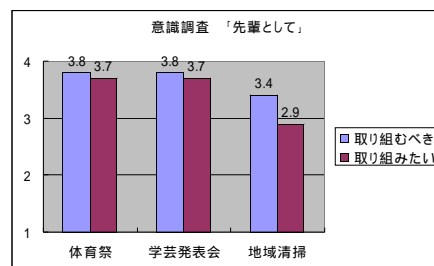


図1 学校行事への取組(最高は4)

(2) 「目標に向かって」考え、行動する

自分の所属している集団の目標が何であるのかを理解し、その達成のために活動していくこ

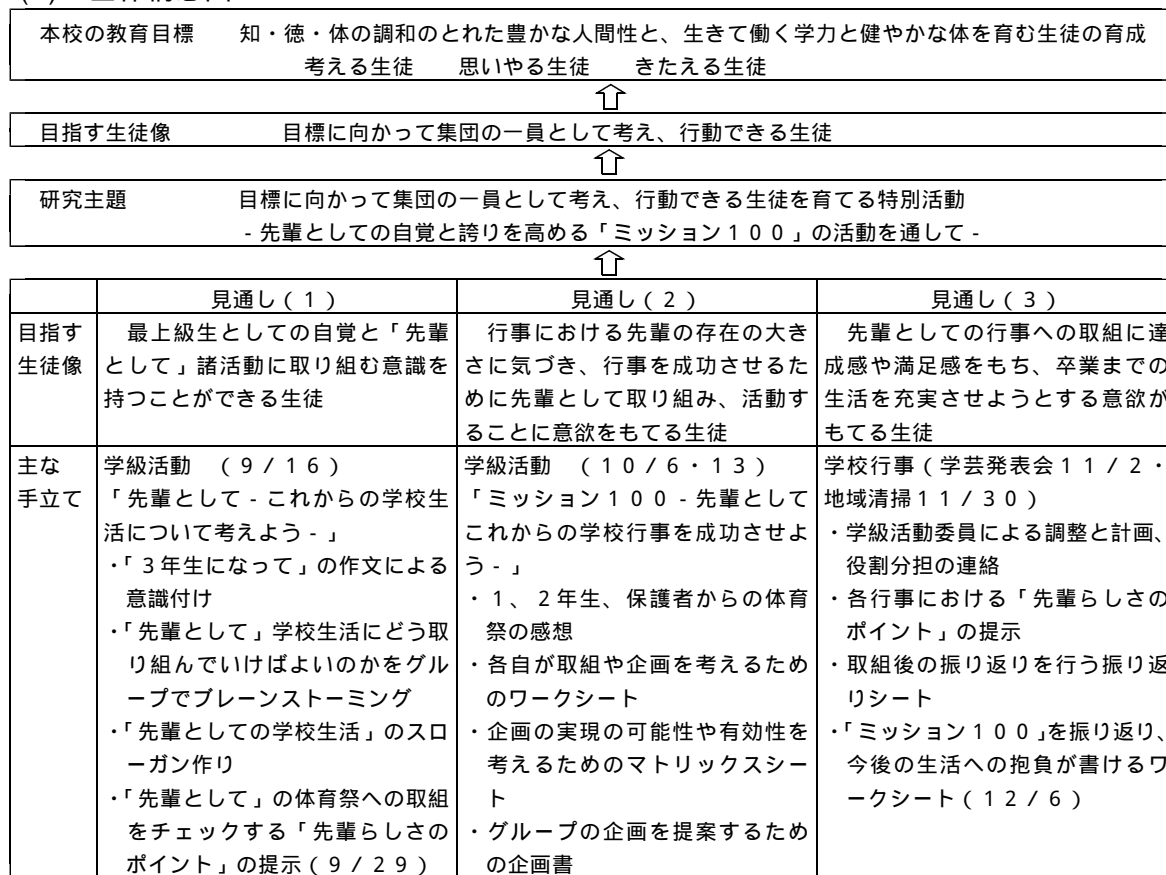
とである。ここでは、先輩として考え、行動する場を学校行事にしたことから、目標を「学校行事を充実させ、成功させる」とした。目標設定にあたっては「3年生になって」の作文を活用し、4月の思いを新たにすることから始める。各自の中にあった、3年生としてこうありたいという思いをもう一度確認し、グループで話し合っ、スローガンという形にまとめさせる。そして、最上級生としての自覚をもって諸活動に取り組んでいくという意識を持たせる。

さらに、体育祭後の振り返りの中で、3年生の取り組みに対する、保護者や1、2年生の感想を示し、学校行事の成功の秘訣は、「先輩」の取り組む姿勢にあったことを再確認させたい。

(3) 先輩としての自覚と誇りを高める「ミッション100」の活動

最上級生としてどの学年よりも真剣に行事に取り組まねばならないという自覚や、この学年だからこそできたんだという誇りを高める活動である。3年生全員、100人で取り組んでいくことから、「ミッション100」という活動名を考えた。「100」には「100」%の力を発揮してほしいという願いも込められている。「ミッション」は「使命」という意味であり、「先輩として」の意識をもって行事に取り組んでいくことは3年生としての「使命」でもある。その使命を、自分たちが4月にこうありたいと思い描いていた先輩としての姿、および、体育祭後の振り返りの中で、保護者や1、2年生の感想の中から生徒自身に見いださせたい。また、「先輩らしさのポイント」を各行事の前に示すことでさらに自覚を促し、優れた先輩としてのイメージを持って行事に取り組ませていきたい。

(4) 全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

考察は、学年全体及び抽出児A子の活動の様子、作成されたスローガン、「先輩らしい姿」、「先輩らしさのポイント」、企画書、自己評価、意識調査、振り返りシートなどの記述内容をもとに行う。

抽出児A子は、3年生当初を振り返って、「ちゃんと先輩らしくできるかとても不安だった。」と書いている生徒である。「3年生になって」の作文の中には、「忘れ物をしない」「毎日早起きをする」といった、基本的な生活面での個人の目標が書かれており、集団の一員としての目標までは持てずにいた。

(1) 「先輩として」諸活動に取り組む意識を持つことができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

部活動のない学校生活が始まった9月の中旬に学級活動「先輩として-これからの学校生活を考えよう-」を実施した。導入には、生徒が4月に書いた「3年生になって」の作文を活用し、お互いの思いを確認した。次に、これからの

資料1 スローガンの掲示



学校生活における「先輩らしい姿」をそれぞれがイメージし、付箋紙に書き出した。その後グループで、付箋紙を出し合いながらブレインストーミングを行い、先輩として学校生活を送るためのスローガンを作成し、廊下に掲示した。

イ 結果と考察

作文を振り返る段階では、それぞれが照れながらも真剣に読み返し、自分が4月当初に目標としていたことを再確認する姿が見られた。次に、「先輩らしい姿」を付箋紙に書く段階では、具体的な場面を考えたり、これまでの3年生の姿を思い起こしたりすることによってイメージを広げていった。書き出された内容は、「結果をみんなで喜び合える、たたえあえる」「みんなで歌を作り上げていく」といった、体育祭、学芸発表会にかかわるものが多く、生徒は、集団での取組の中で、先輩らしさを発揮したいと願っているということが確かめられた。

作成されたスローガンは資料2の通りである。Aは「先輩」としての意識の強いもの、Bはその中でも「伝統」を守り伝える役割を意識したもの、そしてCは、残された中学校での日々を大切にしていこうという意識の表れたものである。いずれも、最上級生という集団が置かれている状況や段階を自覚して作成されている。

資料2 各グループで作成されたスローガン

A	<ul style="list-style-type: none"> 先輩としてすべてやる!!^{さすが}流石だよな俺達^{おれら} ・HERO 元気にあいさつ やさしい先輩
B	<ul style="list-style-type: none"> 伝えよう あいさつ 清掃 毛中の緑 ・笑顔たやさず、伝統守る3年生 永遠に守り続けよう すばらしい伝統
C	<ul style="list-style-type: none"> いつでも今日が一番大切な日 ・おもいっきり笑って泣ける3年生 この1年 あふれる笑顔 感動の涙 ・1日1日を大切にしていこう! 笑顔と涙の3年間 ・目指せメリハリ ・残りの毎日を笑顔で過ごそう 本当に本気でがんばる3年生 ・がんばる心 やさしい心 大切に 一致団結!!最高の思い出を作るため!! ・頑張る心を忘れずに 前向きに 僕らのFightに日々感動!!

また、付箋紙に書かれた体育祭における先輩らしい姿を、「先輩らしさのポイント～体育祭編～」としてまとめ、自分の目指す先輩らしさをさらに書き込めるようにして配布したところ、全員が先輩としての自己目標を記入して体育祭に臨んだ。結果、2年生の時とは見違えるほどの、それぞれの目標に向けた団結力が発揮され、時間を惜しんで練習に励み、後輩を励まし応援する姿が随所に見られた。自己評価では先輩らしさのポイント20項目のうち平均18項目に達成の印が付けられていた。

抽出児A子は、「先輩らしい姿」として、「みんな真剣に取り組んでいて、あんな風になりたいと思った。」と、印象に残っている昨年度の3年生の姿をあげ、スローガン「頑張る心を

忘れずに「前向きに」を作成した。また、「先輩らしさのポイント」では、「服装をきちんとする」ことを個人の目標としてあげた。さらに、団として取り組む「ソーラン節」の推進役に立候補し、全体構成の立案や、1、2年生への振り付け指導等に日々努力する姿が見られた。これらの記述、行動は、先輩として諸活動に取り組もうとする意識の表れと言える。

これらのことから、生徒は、学級活動を通じて、最上級生としての自覚を持ち、「先輩として」諸活動に取り組む意識を持つことができたと考えられる。

(2) 行事における先輩の存在の大きさに気づき、行事を成功させるために先輩として取り組み、活動することに意欲をもつことができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

体育祭が終わった翌週、学級活動「ミッション100 - これからの学校行事を成功させよう -」を実施した。体育祭当日が、学校生活残り100日となる日であったため、「ミッション100」という活動名を前日に提示し、意識を高めた。また、1、2年生全員と、体育祭に来ていた保護者、及び他校に異動した教師から3年生の取組に対する感想やメッセージをもらい、1、2年生のものは廊下に掲示して、事前に読んでおけるようにした。

学級活動ではまず、1、2年生や保護者、教師の感想から自分たちのがんばり、そして先輩の存在の大きさを再確認できるようにした。次に、学芸発表会と地域清掃の二つの行事について、成功させるための取組や活動を考えた。それぞれが考えた活動は、グループごとにマトリックスを用いて実現の可能性や有効性を話し合い、活動の内容、活動時間と活動期間、役割分担、用意する物などを資料3のように、企画書にまとめて発表した。

イ 結果と考察

1、2年生、保護者、教師の感想は、3年生の姿に感動したというものがほとんどであった。3年生は全員が資料4に代表されるような感想を書いている。特に傍線部には集団としてのがんばりを認められた喜びや、これからの行事・生活への意欲が読み取れる。授業後の自己評価では、「行事の中での先輩の存在の大きさがわかった」という項目の数値が高い。

自由記述欄でも、全体の7割に「あら

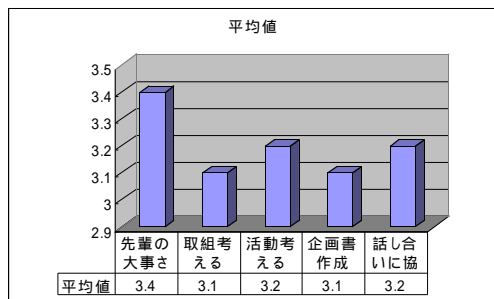


図2 学級活動 自己評価(最高値は4)

資料3 企画書の一例

「ミッション100」
行事を成功させる活動企画書

行事名	活動名	企画 8年 C組	指導 中産
学芸発表会	意気込み紹介コーナーをつくらう	企画責任者	()
活動の概要 パフォーマンスをつくって意気込みを発表する			
場所	時間 期間 など	1週間くらい前～体育祭まで	
参加者	役割分担	クラス	
対象に	内容	みんな向け	
必要な	活動の目的	意気込みをいれたいコーナー	
どのように	どうするか	もうすぐには	
使用する物	必要物品	紙、ペン	
その他			

*できるだけ具体的に！でも、しすぎる必要はありません。

資料4 感想を聞いて

・どの人達の感想も、ソーラン節や団競技を頑張っていたと書かれていたので、とてもうれしかった。1、2年生は来年は3年生のように頑張りたいなどと書かれていたので、自分のためだけではなく、みんなのために頑張れてよかった。

・感想を聞いて僕たちにも人を感動させることができるのかと思った。何にでも一生懸命取り組めば、一人ではなくみんなで取り組めば、悔いの残らないいいものができるのだとわかった。

・みんながどの競技も一生懸命全力でがんばったから見てる人が感動したんだと思った。何事にもがんばろうと思う。

・やっぱり3年生が一番がんばってんだなーと思いました。また、このがんばりを学芸発表会や高校受験などにつなげていけたらいいと思いました。

ためて自分が先輩なんだということが確認できた。」「行事にしてもふだんの生活にしても先輩が後輩の手本になることが大切だなと改めて思った。」といった記述が見られた。残りの3

割も、「先輩の存在の大事さがすごくわかった。でも先輩になるのって大変だと思った。」というもののや、「取組を考えることはできたけれど、具体的に活動するのは難しいことだと思った。」といったものであり、先輩としての責任を感じ、苦労しながら企画を検討していたことが読みとれる。企画書は全てのグループが作成し、それぞれの考えをまとめることができた。

抽出児A子は、どの場面でも真剣な取り組みが見られ、「私たち3年の姿を見て、感動してくれたりすごいなあと思ってくれたんだと知ってすごくうれしかったです。がんばってきてよかったなあと改めて思いました。」と感想を書きながらも、「いざ自分が後輩を引っ張っていくとなると、これでいいのかなあと心配になりました。」と、まだ先輩としての取り組みに不安を持っているようでもあった。A子のグループからは、「意気込み紹介コーナーを作ろう」（学芸発表会）「一致団結清掃大会」（地域清掃）の二つの企画が出されたが、いずれも全校で行事を盛り上げようとする企画であり、自分たちの学年だけでなく、先輩として、後輩とのかかわりを大切にしていこうとするものであった。そして、A子のワークシートの自由記述欄には「体育祭で先輩らしい姿が見せられなかった分を合唱コンクール（学芸発表会）で発揮していこうと思います。その姿を1、2年生に見てほしいです。」という意欲に満ちた言葉が書き込まれていた。

取組や活動を考える場面での工夫はさらに必要であるが、学級活動 によって、行事の中の「先輩」という存在の大きさに気づき、これからの行事を成功させるために「先輩として」取り組み、活動する意欲をもつことができたと考えられる。

(3) 先輩としての行事への取組に達成感や満足感をもち、集団の一員として卒業までの生活の充実を心がけていこうとする意欲をもつことができたか。（見通し3）

ア 実践の概要

学芸発表会と地域清掃に向けて、各グループから出された企画書を学級活動委員会で分類、精選し、クラスに提案して活動に取り組んだ。（資料5）

資料5 先輩として行事を成功させるための企画

<学芸発表会>

- ・企画1 たてわり練習（各学年のA組どうし（体育祭の団）で練習をし、アドバイスしあう。）
- ・企画2 合唱参観（団を超えたクラス、他学年の先生に合唱を聞いてもらう。）
- ・企画3 意気込み紹介ポスターの作成（クラスの一人一人の合唱に向けての意気込みを1枚のポスターに書き込み、生徒玄関に掲示する。）
- ・企画4 カウントダウン大作戦（学芸発表会までの日数を生徒玄関に掲示する。）

<地域清掃>

- ・企画1 一致団結清掃大会（学年別に行っていた地域清掃を団別にし、さらに団を三つに分けて取り組む。）
- ・企画2 ボイ捨て防止キャンペーン（3年生全員が「ボイ捨てはダメ!!!」と書いたテープをカバンにはって登下校する。）

また、「先輩らしさのポイント～学芸発表会編～」及び「同～地域清掃編～」を配布し、自分の目指す、先輩としての目標を書き込んで、先輩らしい姿を意識したり、振り返ったりできるようにした。

二つの行事の終了後、これまでの「ミッション100」の活動を振り返り、卒業までの生活について考えさせる時間を設けた。

イ 結果と考察

学芸発表会の企画は、クラスの合唱練習の合間をぬって実施されたため、十分とはいえない取組だったが、振り返りの感想の中では98%の生徒が、「悔いを残さないようにやれることはすべてした。」「みんなで一つの目標に向けてがんばることができた。」という集団の一員としての達成感や満足感に満

ちた言葉を書いており、目標に向かって仲間と共にがんばる気持ちが育まれていたと考えられる。

地域清掃は学級活動委員が中心となり、現場の下見、グループ分け、1、2年生への説明を経て、団別に行われた。それぞれの分担箇所では3年生が先頭に立ってゴミを拾う姿が見られ、振り返りの中では、「去年と比べて楽しかった。」「時間が足りなかった。」という感想が随所に見られた。

また、各行事への取り組みを通して、学年と学年の一員としての自分の活力がアップしたかについて、最高値をプラス3として尋ねたところ、図3のように双方ともアップしていると感じている生徒が多いことがわかった。学年の力のアップ度のほうが高いのは、一人一人がプラス2の力を出した場合、集団になればプラス3の力になるということの表れともいえる。

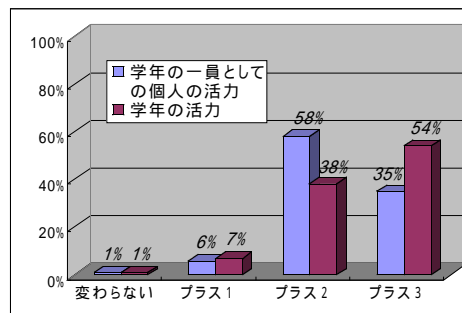


図3 学年、個人の活力の変化

次に、二つの行事における「先輩らしさのポイント」の中から、これからの生活に生かしたいものを挙げさせたところ、資料6に挙げたポイントに支持が集まった。特に傍線部に集団の一員として考え、行動しようとする意欲を見ることができる。

資料6 これからに生かす「先輩らしさのポイント」

学芸発表会から	地域清掃から
・全力を尽くす	・手を抜かないで真剣にやる
・まず自分ががんばる	・ポイ捨てをしない人間になる
・ <u>クラスを大事にする</u>	・と決意する
・悔いを残さないようにやる	・ <u>一人一人が一生懸命にやる</u>
・ことはすべてやる	・ <u>みんなで力を合わせる</u>
・行動にメリハリをつける	・ <u>自主的にどんどん活動する</u>

さらに、3年生が目指す目標について、2学期当初の意識調査では「志望校への合格」と「行事でがんばること」の二つを挙げる生徒が圧倒的に多かったが、「小さなことにも全力を尽くす」「学校での生活を最後まで大事にする」「後輩の手本となるよう生活する」といったものが増え、日常生活の中にも目標を見いだすことが出来るようになっている。

抽出児A子は、二つの行事のいずれにおいても企画が採用され、どの活動にも意欲的に取り組んだ。学芸発表会を振り返って、「昨年の先輩たちもすごかったけど、私達の学年もすごく良かったと思う。自分たちにできることを精一杯やることができ、いい思い出も残った。最高の合唱コンクールだった。」と感想を書いている。また、今後の生活の中で大切にしていきたい「先輩らしさのポイント」として「全力をつくす」「常に勝ちをねらう」「クラスを大事にする」を選んだ。

次に、地域清掃では「ゴミをたくさん拾った」だけでなく、「1、2年生との交流を深めることができた」ことに成果を見いだしており、今後は「指示ができる」先輩になりたいという意欲を持つことができた。

さらに、現在の学年の力について「昨年の先輩たち以上にパワーがあったと思う」ととらえており、A子自身の力はプラス3のアップで、「みんなのために何かをしようと思えるようになった」と記述している。

先輩らしくできるかという不安を抱え、前年度の3年生と自分たちを比較して自信を持てずにいたA子であったが、行事を終えるごとに、自分の学年への自信が深まり、自分のことを考えて行動できるようになっていった。そして、卒業に向けて資料7のような、達成感・満足感の感じられるメッセージを学年の仲間に書いている。

以上のことから、「先輩として」生徒自身が企画を考え、行事に取り組んでいくことは、集団としての満足感や達成感を高め、集団の一員として考え行動できる力を育み、卒業までの生活の充実を心がけていこうとする意欲をもつことにつながったといえる。

資料7 抽出児A子の仲間たちへのメッセージ

・合唱コンクールや体育祭でみんなが一生懸命取り組んでいる姿を見て、「私もがんばらなくちゃ」と思うことができた。失敗しても励ましてもらえたから途中であきらめずに最後までできたのだと思う。私が今こうして毎日楽しく過ごしているのも、すべてみんながいてくれたからだと思う。あと50日ほどでばらばらになってしまうけれど、大切なみんなのことは糸色村に忘れない。



研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

「ミッション100」の活動を行うことによって、生徒はクラスの勝利だけでなく、「先輩らしく」という学年としての目標をもって行事に臨むことができた。また、「先輩らしさ

資料8 「仲間たちへのメッセージ」からの抜粋

・みんなのおかげですばらしい1年が過ごせそうです。
・一生に一度しかない毛中での3年間をこの100人で過ごせたことをとても誇りに思います。この100人だからこそ出来たこと、たくさんあると思います。
・私はずっと自信がなくて、3年生になった時も「大丈夫かな…」と不安でいっぱいでした。だけど、この「ミッション100」を通して少し自信が持てるようになりました。3年生として残された時間は残りわずかですが、その残りの時間を少しでも「先輩らしく」過ごしたいです。

のポイント」を指針としながら、集団として何ができるか、個人として何ができるかを考えて活動することができた。

その結果、学年としての活力が高まり、資料8の記述に見られるような満足感や達成感を得るとともに、集団の一員としてがんばれた自分にも自信を持つことができるようになってきている。

このことから、学級活動や学校行事を通して「ミッション100」の活動に取り組んだことは、集団への所属意識を高め、その一員として考え、行動できる生徒を育てる上で有効であったと言える。

2 今後の課題

前述の指導により、生徒の行事への意欲は格段に高まり、生徒一人一人の熱意あふれる取り組みを見ることができたが、その後の生活の中でその力を見取るところまでは至っていない。先輩らしさのポイントを日常生活の中でも見いださせることで、集団の一員として行動できる力を育てる活動を継続していくことが必要である。

参考文献

- ・成田 國秀・中島 直孝・齋藤 隆士 編著 『新しい特別活動 よい活動の条件Q&A』東洋館出版社(1991)
- ・高橋 哲夫・原口 盛次・井上 裕吉 編 『中学校学級活動 3年』教育出版(1995)
- ・小林 一也・熱海 則夫 編著 『新学校教育全集14 学校行事』株式会社ぎょうせい(1995)